

物語部門

## ふたりのえびす

高森 美由紀/作  
(フレーベル館)  
91・タ

おちゃらけキャラの太一<sup>たいち</sup>と、クールな転校生の優希<sup>ゆうき</sup>が、伝統芸能「八戸えんぶり」<sup>はちのへ</sup>に挑戦。太一は、王子のような振る舞いの優希が、こっけいな「えびす舞」に立候補したのを意外に思っていたが、練習を始めると優希がリズムにのって踊れないことが分かり、さらに驚く。王子キャラがくずれてしまうと心配するが、優希は練習を辞めない。優希の思い、えんぶりを仕切る親方の思いを知り、太一は自分がすべきことを真剣に考え始める。



物語部門

## かがやき子ども病院 トレジャーハンター

まはら 三桃/著  
(講談社)  
91・マ

一健<sup>いっけん</sup>が入院しているかがやき子ども病院には院内学級があり、良志<sup>りょうし</sup>、昴<sup>すばる</sup>、早弓<sup>さゆみ</sup>、日彩<sup>ひいろ</sup>、理央<sup>りお</sup>が通っていた。新しく入ってきた知樹<sup>ともき</sup>は、パソコンに夢中でなじめない。ある時、良志が「氷の女王」という創作の話をしてくれた。いいところで良志が眠ってしまったので、みんなは続きが気になっていた。一健は、良志から続きを書いたノートがなくなってしまったことを聞く。病院のどこかにあるはずと考えた一健たち7人はノートを探す計画を立て、大冒険を実行する。



物語部門

## 火星のライオン

ジェニファー・L・ホルム/作  
(ほるぷ出版)  
93・ホ

2091年、ベルたち子ども5人と大人6人、ネコ1匹が火星で暮らしていた。ある時、大人だけが原因不明の病気にかかる。子ども達はなんとか自分達で乗り切ろうとするが、大人達はいっこうに良くならない。地球に救助要請のメールを送ると、薬が届くのは8ヶ月後だという。待てないと判断した子ども達がとった行動とは...



ノン  
フィクション  
部門

## 牧野富太郎

横山 充男/著  
(くもん出版)  
28・マ

明治初期、日本では名前がはっきりせず「雑草」と呼ぶ植物が数多くあった。幼いころから草木を見るのが好きだった牧野富太郎は、きっと名前があるはずと詳しい人を訪ね、本で調べた。外国では共通の学名を付けて分類していることを知った富太郎は、全国を歩いて植物を採集、標本し、図と説明文を書き、印刷まで自ら行い、『日本植物志』を作る。集めた標本は40万点。80年を経た現在でも『牧野日本植物図鑑』は新種が加えられながら使われている。植物のすばらしさを伝え続けた富太郎の人生を描く。



物語部門

## カンフー & チキン

小嶋 陽太郎 / 著  
(ポプラ社)  
91・コ

有名私立高校を目指す中学2年生の竹人は、塾の帰り道、町の不良グループにからまれ、財布を取られてしまう。そこに現れたのは、クラスの変わり者、伊倉だった。伊倉は悪者をやっつけるチームを組もうと言い出し、同級生の三森や引きこもりの兄も加わることに。リーダーは町の実力者の身内で、正面から対決しても勝てない相手。ついに、竹人が立てた作戦を決行する日がやってくる。



物語部門

## ソノリティ

佐藤 いつ子/著  
(KADOKAWA)  
91・サ

合唱コンクールの指揮者を任された早紀は、幼なじみの音心のように音楽的才能があるわけでもなければ、クラスメートをまとめることもできずに困っていた。晴美の朝練の提案や、涼万の歌をきっかけに、少しずつクラスはまとまってきたが、まだ岳がバスケットで夢中で合唱の練習に一度も来ていない。一人一人の胸に秘める情熱が一つになって響き合う時、どんな歌が生まれるのか!?



物語部門

## マスクと黒板

濱野 京子/作  
(講談社)  
91・八

コロナによる休校が終わり、輝<sup>てる</sup>が久々に登校すると、黒板いっぱいに見事な絵が描かれていた。何色ものチョークによる校舎、桜、学校の背景には富士山。そして《新年のみんな、入学おめでとう！君たちの中学生活が充実したものになりますように。コロナに負けるな！》という文字。黒板アートに心がゆさぶられた輝の中に、学校行事が次々と中止、白マスク強要という日々に対して、「何かやれないのかな？」という思いが沸き起こる。

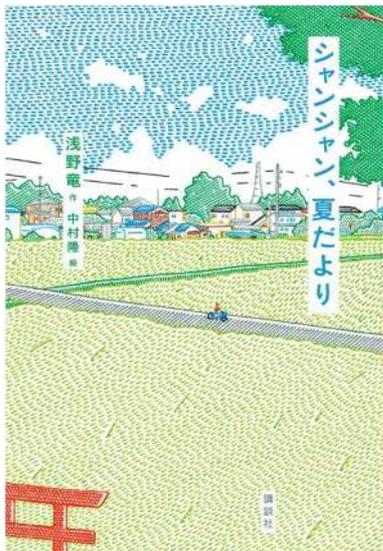


物語部門

## リメイク！

あさだ りん/作  
(フレーベル館)  
91・ア

莉奈に手芸クラブのクラブ長を押しつけられた由希。4、5年生の面倒をみているだけで、クラブの時間は終わってしまうし、バザーに去年と同じ壁かけフラッグを出そうと提案したら、5年生男子に「だっさい」って言われるし クラブ長って大変！バザーに出す作品は、はぎれをリメイクしたもので、手芸が苦手な子も一緒にみんなで作れるものでなければならない。何かいいアイデアで、手芸クラブすごいって言わせられないかな。由希の挑戦が始まる。



物語部門

## シャンシャン、夏だより

浅野 竜/著  
(講談社)  
91・ア

6年生になって転校してきた川村ちとせは、近寄りたがい存在だった。夏休みに野歩人<sup>のぶと</sup>が母親のおつかいで川村を訪ねると、彼女はセミを捕ろうとしていた。シャンシャンシャンシャンという鳴き声 クマゼミだ！この辺りでは珍しい。野歩人はクマゼミを自由研究のテーマにしようと、友達の加茂原<sup>かもはら</sup>を誘う。川村にもクマゼミを探していることを話し、徐々に打ち解けていく。はたして自由研究は...？夏の変化をまぶしく感じる物語。



物語部門

## 本おじさんのまちかど図書館

ウマ クリシュナズワミー/作  
(フレーベル館)  
93・ク

「ぴったりの日に、ぴったりの人に、ぴったりの本を」をモットーに本おじさんは、まちかど図書館を開いていた。ヤズミンは毎日ここに立ち寄り、1日1冊借りて、読んだ本は400冊を超えた。ところがある日、突然まちかど図書館がなくなることに！本おじさんのところに許可証を出すように通知が来たからだ。無料で本を貸している本おじさんには許可証をもらうためのお金がなかった。ヤズミンはどうか図書館が続けられないか考える。



ノン  
フィクション  
部門

## ももちゃんのピアノ

柴田 昌平/文  
(ポプラ社)  
21・シ

上地百子さんはグランドピアノがひきたくて、ひめゆり学園に入った。音楽の東風平先生がピアノを教えてくれたり、ブラスバンドの指揮をしてくれたり、楽しい時間を過ごす。しかし、2年生になったころから徐々に戦争の影響が出始める。外国の音楽家が作った曲は禁止、英語の授業も禁止、ついに授業がなくなり、負傷した兵隊さんのお世話をすることに。「お国のためなら命を惜しむな」という軍歌のとおり、敵の捕虜にならないよう自ら死を選ぶ人々。でも、東風平先生は最後に「生きろ」とい言葉を残した。何が正しいのか戦場では分からなくなっていたももちゃんが、生き残った今思うこと。



物語部門

## 金曜日のヤマアラシ

蓼内 明子/著  
(アリス館)  
91・夕

6年生のウタのクラスに転入してきた桐林君は、まるでヤマアラシのようにトゲトゲしていた。ウタはお母さんが亡くなっていて、父親のさくちゃんと二人暮らし。そのさくちゃんは、ウタがちょっと話したヤマアラシについてなぜかとても興味を持ち、毎週金曜日の夕食でウタに今週のヤマアラシについて質問するように。



物語部門

## はじめましてのダンネバード

工藤 純子/作  
(くもん出版)  
91・ク

夏休み明け、蒼太のクラスに転校生が入ってきた！名前はエリサ・ビソカルマ。ネパールから来た女の子だ。でも、日本語があまり話せないエリサちゃんは、いつも無言で笑わない。クラスになじめないまま、学校に来なくなってしまった。蒼太と幼なじみのゆうりは、エリサちゃんの家を訪ねる。お互いの国の言葉がわからず、話ができなかったら、友達になれないのかな…。



## すこしずつの親友

森埜 こみち/著  
(講談社)  
91・モ

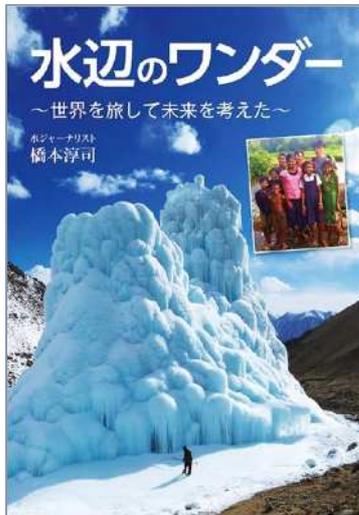
「親友って、どうやったらつくれるの」という問いに、伯母さんは「たぶんつくるものじゃなくて、出会うのよ」と言った。伯母さんは世界を旅して出会った「すこしずつの親友」の話をする。ネパールの少年やオーストラリアで会ったウルルのガイド、ゴッホとゴーギャンの話もあれば、屋久島の鹿の話まで。出会ってすぐ一瞬の表情から始まる友達もあるのかもしれない。



## 宇宙食になったサバ缶

小坂 康之/著 別司 芳子/著  
(小学館)  
66・コ

2020年11月27日、国際宇宙ステーションにいた野口聡一(そういち)さんが食べた宇宙食はサバ缶！福井県立若狭高校の高校生が作ったサバ缶だ。厳しい条件が課される宇宙日本食で、たった一つ認められている高校生が作ったメニュー。14年前「ここでつくったサバ缶を、宇宙に飛ばせるんちゃう？」という生徒の一言がきっかけで始まった挑戦だった。何度も壁にぶつかりながらも、先輩から後輩へと受けつがれていった想い。ミッションを達成した今も小坂先生のもとで進化し続けている。地域みんなで夢をかなえよう！



## 水辺のワンダー

橋本 淳司/著  
(文研出版)  
51・八

世界には安全な水を使えない人が7億人以上いる。汚染された水とわかっていても、それしかないからと飲み続ける人々、湖や氷河がなくなってしまう生活の場を失う人々。私たちが電気や水を使って豊かな暮らしを送ることで温室効果ガスを発生させ、異常気象を起こしているとすれば、こうした世界の水事情は決してひとつではない。日本でも豪雨や土砂災害が増えている。人が自然をコントロールすることはできない。では未来を変えるために、何ができるだろう。



物語部門

## トキングドラム

佐藤 まどか/著  
(PHP 研究所)  
91・サ

放課後子ども教室に通う高学年は4人。やかましいタヌ、クラスにとけこめない愛ちゃん、マイペースな健太、そして家に居場所がなくて、友達とも離れちゃった私マッキー。ある時、健太の作っていたドラムセットがカッコよくて、4人で本格的なものを作ろうと団結する。材料はたらいやお米の袋など手に入るものを使い、色は赤と黒に統一。はたしてどんな音楽がかなでられるのか？



物語部門

## てつほうの鳴る浜

森川 成美/作  
(小学館)  
91・モ

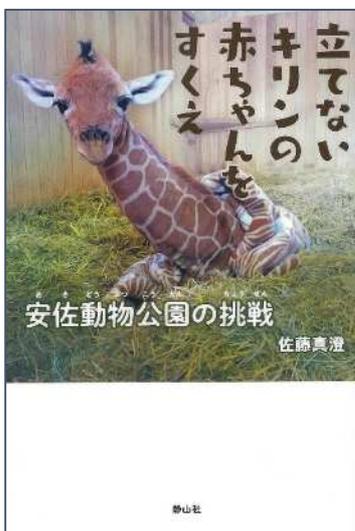
ながたね長種は武士の子に生まれながら戦をきらい、商人になろうと船にしのびこんでいた。すぐに見つかってしまうが、船長のりゅうげん竜玄は長種を気に入り、大商人のちやうえい張英に紹介する。竜玄は長種に「人には、それぞれに決まった運がある。運を変えようとするのではなく、運を楽しむのだ。」と教える。命をねらわれている張英、鏡で先を見ることができ少女いと達とさけられない戦を乗り越えながら、長種は自らの運を切りひらいていく。鎌倉時代を舞台とする歴史ファンタジー。



## 太陽と月

はらだ みずき/著  
(小学館)  
91・八

小学6年生の月人は、プロのサッカー選手になりたいと思っているが、最近、自分のプレーに自信が持てない。そんな時、クラブチームの選抜テストで、同じフォワードのポジションの太陽に負かされてしまう。小柄だがドリブルがうまい太陽に、月人は圧倒された。月人は、応援してくれる祖父の晴じいのすすめで、プロのサッカー選手を育てるJFAアカデミーの試験を受けるが、そこで太陽と再会することになる。



## 立てないキリンの 赤ちゃんをすくえ

佐藤 真澄/著  
(静山社)  
489・サ

2020年4月、広島市安佐動物公園に生まれたキリンの赤ちゃんは、足が不自由で立つことができなかつた。キリンのお母さんは座って授乳することができないので、赤ちゃんは生まれてすぐに立ち上がれないと、お乳がもらえず死んでしまう。動物のプロフェッショナルである飼育技師や獣医師が、挑戦と失敗をくりかえしながら、ミルクを与え、ギプスを巻いて、赤ちゃんはなんとか育っていくが、大きくなるにつれ、ギプスを巻くのが難しくなり...

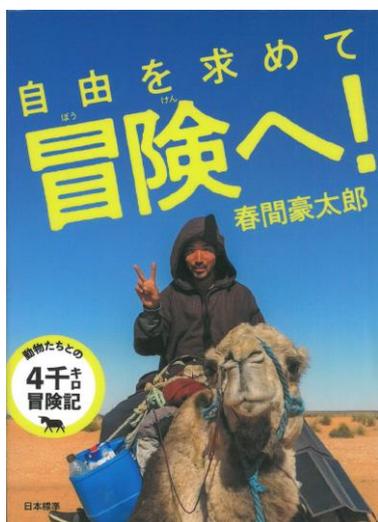


物語部門

## 忘れもの遊園地

久米 絵美里/著  
(アリス館)  
91・ク

忘れものをしたトラタとレミの前に現れたおじいさんは、「忘れもの遊園地」の園長だった。忘れたい記憶<sup>おく</sup>をタブレットに書き込めば忘れものを渡すと園長に言われ、2人は記憶と引き換えに忘れものを手に入れる。ある時、レミが家に帰ってこないお母さんを心配して探していると園長が声をかけてきた。お母さんが忘れもの遊園地にいることを知ったレミはトラタとトラタの姉のツバメといっしょに遊園地へ向かう。



ノン  
フィクション  
部門

## 自由を求めて冒険へ！

春間 豪太郎/著  
(日本標準)  
29・ハ

春間豪太郎さんは、動物と一緒に旅する冒険家。周りの人から「無理だ」と言われても、自分の考えをつらぬき冒険を成功させてきた。旅を終えるごとに問題を克服できるよう、外国語、動物医療、気象などを勉強して次の冒険に備えている。怖い思いをすることもあるが、その地の文化を知ったり偶然の出会いから様々な体験をしたりすることで、自分の得意なことに気づき自信が持てるようになった。春間さんと動物たちの、3つの「リアルRPG」冒険記。



物語部門

## ラベンダーとソプラノ

額賀 滯/作  
(岩崎書店)  
91・ヌ

真子たちの合唱クラブは、コンクールで金賞を取るという目標に向かって、練習にはげんでいた。でも、金賞というプレッシャーから先生や部長がどんどん厳しくなっていく、みんなは怒られないために歌うようになっていく。クラブを辞めたいという子も出てきた。そんな時、真子は商店街の人達による「半地下合唱団」で、一つ下の朔君の歌を聞くことになる。ソプラノ音域で歌う朔君はクラブの誰よりも上手だった。その歌声に真子は大切なことに気づく。



物語部門

## 黒紙の魔術師と白銀の龍

鳥美山 貴子/著  
(講談社)  
91・ト

主人公の悠馬は小学6年生。あるとき神社の山で捕まえた黒いトカゲが、いつの間にか紙になっていた。植物が好きだが友達にあまり語れずにいる悠馬は、クラスの子のことなど気にせず折り紙を折る啓図のことが気になっていた。折り紙でできた黒いトカゲを手にしたことから悠馬、啓図、皇輝、智哉、少年たちの冒険が始まる。



物語部門

## 考えたことなかった

魚住 直子/作  
(偕成社)  
91・ウ

中学2年生の颯太<sup>そうた</sup>は、人間の言葉をしゃべるネコに突然声をかけられた。「わたしは、未来のお前なのによー」。ネコは、年をとった自分が孤独のうちに死にかけているので、若い頃の自分に忠告しに来たという。逃げ込んだ祖父母の家は、おばあちゃんがなんでもやってくれて居心地がいい。家に帰ると、お母さんと妹は颯太に「家事をやれ」と口うるさく、友達の女の子には、ジュースをおごろうとして怒られる。颯太は、ネコの「によい」との出会いをきっかけに、社会のしくみについて考えはじめる。



物語部門

## 雨の日は好きな人

佐藤 まどか/著  
(講談社)  
91・サ

おかあさんが再婚し、6年生の七海<sup>ななみ</sup>には、新しい父である「おじさん」と、2歳年上の姉ができた。でも、病気で入院しているという姉の幸ちゃん<sup>ゆき</sup>には、まだ一度も会わせてもらえない。おかあさんもおじさんも、幸ちゃんの看病で帰りが遅い。仕方がないとわかっているけど、友達と自分を比べて、この世は不平等にできている、と思ってしまう。ある日、仮病で学校をズル休みした七海は、おかあさんとおじさんにナイショで幸ちゃんのお見舞いに行くことにする。



物語部門

## 勇気を出して、はじめての一步

本田 有明/作  
(小峰書店)  
91・ホ

健人は立ち幅跳びの時に踏み出すのが苦手。アンちゃんは足のけがをしてから引っ込み思案。そんな二人のクラスに、けんかっ早いダニエルが編入してきた。最初はみんなこわがっていたけれど、アンちゃんは英語がわかるから、ダニエルと対等に話せるみたい。健人のなやみもダニエルがあっという間に解決した。でこぼこがあっても、友達のかで補いあえたらいいな。



物語部門

## 手で見るぼくの世界は

檜崎 茜/著  
(くもん出版)  
91・カ

視覚支援学校に在籍する佑は、中学部になり寄宿舎での生活が始まった。両親の助けを借りず生活したり、クラスメイトが増えたりといった新しい環境での戸惑いだけでなく、佑には気になることがあった。小学部を共に過ごした双葉が白杖を持って外出した時にトラブルにあい、卒業式前から学校に来なくなったのだ。白杖歩行の授業を前にして、佑は白杖を持ち外出することに不安な気持ちを感じていた。

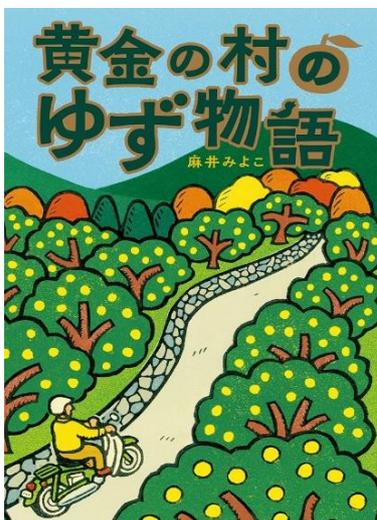


物語部門

## 明日の国

パム ムニョス ライアン/著  
(静山社)  
93・ラ

サンタマリアの「女王の塔」には、かつて隣の国から逃げてきた隠れ人が住んでいるという言い伝えがあった。サッカー少年マックスは、新しく来たコーチに出生証明書を出すことになるが、その時初めて自分の証明書がないことを知る。マックスが小さい時、どうして母はいなくなってしまったのだろう。出自を探り始めたマックスは、自分の家族が隠れ人を助ける守り人だったこと、母は「明日の国」へ行ったことを突き止めていく。そしてマックスが一人で過ごす夜、見知らぬ男が訪ねてきた！

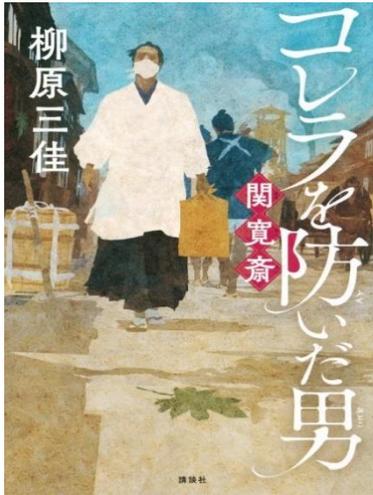


ノン  
フィクション  
部門

## 黄金の村のゆず物語

麻井 みよこ/著  
(ポプラ社)  
62・ア

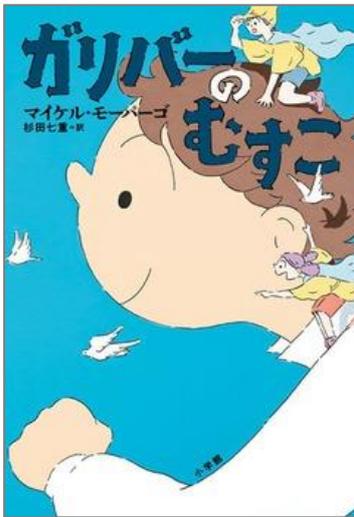
1960年、農家に栽培技術を教えるために徳島県木頭村<sup>きとう</sup>にきた臼木<sup>うすき</sup>さんは驚いた。山の木が町の人達によって好き勝手に切られ、村人たちは貧しい暮らしを強い<sup>し</sup>いられていたからだ。心優しい村人たちが豊かに暮らせるようになるには、何か売れる作物を見つけなければならない。なかなか木頭で育つ作物を見つけられなかった臼木さんは、山から木頭村を見下ろした時、ゆずがあちこちの家にあることに気づいた。通常18年かかるゆずの栽培を、接ぎ木の技術で3年に短縮させて売り出した。ゆずを日本を代表する果物にまで導いた人々の情熱が伝わってくる一冊。



## コレラを防いだ男 関寛齋

柳原 三佳/著  
(講談社)  
28・セ

1858年、感染症コレラが江戸にはやり始める。東洋医学が重んじられていた幕府は積極的な予防対策や治療を行わず、死者は増えるばかり。混乱した人々は科学的根拠のない祈りで直そうとしていた。しかし、西洋医学を学んでいた関寛齋は、すぐに隔離病棟を作って感染者に薬を飲ませ、健康な者には手洗いや、生水・生ものは口にしないよう予防をすすめた。江戸の台所である銚子の町は、関らのおかげで感染をおさえることができた。その功績は今、生きている私たちの命につながっている。



物語部門

## ガリバーのおすこ

マイケル・モーパーゴ/作  
(小学館)  
93・モ

アフガニスタンの少年オマールは、戦争で家も父も失った。母と難民キャンプで過ごし、イギリスに向かうボートに一人で乗る。母は後から追いかけるからと言って岸に残った。しかし、ボートは嵐あらしにあい、オマールは海に放り出される。流れ着いたところは小人の国リリパット。かつてガリバーがたどり着いた場所だ。オマールはこの国では巨人で「ガリバーのおすこ」と呼ばれる。温かくもてなしてくれる小人達。居心地の良さを感じつつ、母が待つイギリスに行かなくてはとも思う。戦争に翻弄ほんろうされた少年の旅。



物語部門

## トラからぬすんだ物語

テェ・ケラー/作  
(評論社)  
93・ケ

リリーは、ママとお姉ちゃんとハルモニ(おばあちゃん)の町に引っ越してきた。来る途中、道の真ん中にトラがいたが、リリー以外の人には見えないようだ。ママ達はお話の世界のことだと言って信じてくれないだろう。でも、ハルモニなら信じてくれるはず！ハルモニは、自分がトラから盗ぬすんだものを取り返しにきたこと、トラを信じてはいけないことを教えてくれた。しかし、トラはたくみにリリーに近づき、盗んだものを返せば、ハルモニの病気がよくなるという。選択をせまられたリリーがとった行動とは…。